

世界最高水準の医療が小さな命を救う

～特区で医療体制を強化！～

福岡市立こども病院において、^{そうたいかん}双胎間輸血症候群（TTTS）における^{たいじきょうかたいばんぶんごう}胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術（FLP）による治療の実施及びその周産期管理を行うための病床として、新たに6床を整備（増床）し、平成27年9月1日から供用を開始しました！

増床にあたっては、国家戦略特区において世界最高水準かつ国内において普及が十分でない医療を提供する場合に認められる、病床規制に係る医療法の特例を活用して行いました。

喜びの声が届きました!!

(治療を受けたお母さんより)

お腹の子供がTTTSだと分かったときは不安で泣いてしまいました。治療するには岡山県まで行かなければならず、心身ともに負担が大きいと心配していましたが、**こども病院で治療ができると知り本当に安心しました。**

先生や助産師さんたちにはとても良くしていただき、おかげさまで子供たちも元気にすくすく育っています。

ありがとうございました。



福岡市立こども病院より

この度、無事6床の増床が完了いたしました。これもひとえに関係者の皆様のご尽力によるものと深く感謝申し上げます。福岡市立こども病院は、今後もすべてのお子様とご家族の明るい未来のため、全力を尽くしてまいります。

院長 原 寿郎



当センターでは、産科・新生児科をはじめとして、心臓血管外科や循環器科等の各専門診療科が密接な連携を図りながら、個々の症例に対して最適な医療を選択・提供しています。FLP治療が福岡でできることを多くの人に知っていただければと思います。

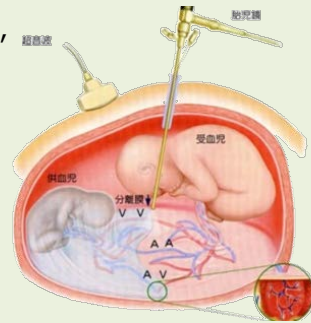
周産期センター長 月森 清巳



Point!!

^{そうたいかん}双胎間輸血症候群（TTTS）ってなに？

双胎に起こる特殊な病気で、ひとつの胎盤内に血管のつながりがあることで、双胎間に慢性的な血流のアンバランスが生じ、両胎児とも状態が悪くなるのが特徴です（貧血・多血、循環不全・循環過多、腎不全、心不全など）。無治療ではどちらの胎児とも救命が困難です。



^{たいじきょうかたいばんぶんごう}胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術（FLP）ってなに？

胎盤内のつながった血管をレーザーで焼き切ることで、血流のアンバランスを取り除く新しい治療法です。従来の羊水除去法と比べて生存率や神経学的後遺症は大きく改善しますが、想定される患者数に対して普及は不十分な状況です。

(国内8施設、九州ではこども病院のみ)



FLP治療の様子

FLP実施施設

福岡市立こども病院



福岡市立こども病院